



道北地方の日本海沿岸や内陸の山から眺められる利尻山。各地には、アイヌの人びとによって信仰された伝説が残されています。

①稚内のカムイトウ（神沼、竜神沼）

坂の下という場所にある沼で、利尻山にいます神の霊水や利尻山がここから抜け出した伝説があります。アイヌの人びとはここにイナウを立てて崇拝していました。利尻の姫沼とつながっているとの噂もあり、テレビ番組「トリビアの泉」でつながっていないことが証明され話題になりました。

②天塩のサラキン沼

更岸にあって、現在は干拓されている沼で、利尻山がここから一夜にして抜け出した伝説があります。ここも信仰の対象となりました。

◆松浦武四郎『西蝦夷日誌』巻之七

③中川のペンケ山、パンケ山

中川町の天塩川流域にある2つの山で、昔は連なった大きな山であったのが、大津波で中央が切れ、日本海に押し出されたのが利尻山になったという伝説があります。

◆更科源蔵『アイヌ伝説集』

④サハリンにある夫婦山

標高が高く目立つ利尻山には、アイヌの夫婦山伝説がありました。

宗谷海峡を隔てたサハリン西岸のホルムスク（真岡）郊外のヤプロチヌイ（蘭泊）にあるメノコ山（女子山、標高588m）がそれです。利尻山（リイシリ、右図□）は、その高さ・山容から男山、メノコ山（メノコリイシリ、右図○）は女山として崇拝されていました。

この伝説は、サハリンを探検した間宮林蔵の記録にも載っています。

◆松田伝十郎『北美談』

愚考新図大略 1781【天明元】年 →

◆この件に関するお問い合わせは、利尻富士町教育委員会（電話0163-82-1370）まで

